

ブロッコリー*¹ (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	根 こ ぶ 病	べ と 病	菌 核 病	苗 立 枯 病	黒 す す 病	根 朽 病	黒 腐 病	黒 斑 細 菌 病	花 蕾 腐 敗 病	軟 腐 病
Zボルドー水	M1		-	-										◎	
クプロシールドFL* ²	M1		-	-									◎	◎	
コサイド3000DF	M1		-	-										◎	
ベジキーパー水	-		*h	-							◎			◎	
マスタピース水	-		1	-									◎	◎	◎
スターナ水	31		14	2									◎		◎
トップジンM水	1		14	2				◎							
ベンレート水	1		7	3				◎							
エトフィンFL	22		1	3			◎								
アフエツトFL	7		1	3				◎		◎	◎				
カンタスDF	7		7	2				◎							
バレード20FL	7		1	3				◎		◎					
アミスター20FL	11		3	3			◎	◎		◎					
スクレアFL	11		1	3				◎							
ファンタジスタ顆水	11		3	3				◎		◎					
メジャーFL* ²	11		1	3				◎	◎	◎					
オラクル顆水	21		*g	2 1		◎		◎							
オラクル粉	21		*g	2		◎									
ライメイFL	21		7	4				◎							
ランマンFL	21		3	3				◎							
			14	1		◎									
			*f	1	☆	◎									
フロンサイドSC	29		*g	1		◎									
フロンサイド粉	29		*b	1		◎									
セイビアーFL20	12		3	3				◎							
リゾレックス水	14		*e	2					®						
			21	1					®						
レーバスFL	40		7	2			◎								

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分類 コード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	使 用 条 件	根 こ ぶ 病	べ と 核 病	菌 核 病	苗 立 枯 病	黒 す す 病	根 朽 病	黒 腐 病	黒 斑 細 菌 病	花 蕾 腐 敗 病	軟 腐 病
オリゼメート顆水	P2		*a	1	☆							◎	◎		
オリゼメート粒	P2		*a	1								◎			
ネビジン粉	36		*b	1		◎									
ネビリュウ粉粒	36		*b	1		◎									
ピシロックFL	U17		1	2			◎								
バリダシン液5	U18		1	3								◎			
キノンドー水40	M1		14	3								◎	◎		
ヨネポン水	M1		1	4			◎					◎			
ダコニール1000FL	M5		*d	2			◎								
			*a	1		◎									
シグナムWDG*2	7・11		7	2			◎	◎		◎					
フォリオゴールドFL	4・M5		*d	2			◎								
ベジセイバーFL	7・M5		*d	2			◎	◎		◎					
カスミンボルドー水	24・M1		7	4								◎			
ホライズンDF	11・27		1	3			◎			◎					
カセット水	31・24		14	2								◎			
ナレート水	31・M1		14	2											◎
プロポーズ顆水	40・M5		*d	2			◎								

*1:茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類、はなやさい類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

*2:「はなやさい類」での登録

*a:定植時 *b:播種又は定植前 *d:出蕾前(但し収穫21日前まで) *e:育苗期

*f:定植前日～当日 *g:定植前 *h:発病前～発病初期

◎:リゾクトニア菌による病害

☆:セル成型育苗トレイまたはペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用方法は、土耕栽培による苗には使用できない。

ブロッコリー*1 (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用回数	アブラムシ	アザミウマ	カブラハムチ	アオナシ	コナメダ	ハイマダラ	ヨトウムシ	ハスモン	シロイチモ	オオタバコ	ウワバキ	ネキリ	キスジノミ	コガネムシ	ケシ	キボシ
スピノエース顆水	5		3	3					◎◎												
オルトラン粒	1B		*d	1		◎	◎			◎						◎					
ジェイエース粒	1B		*d	1						◎											
ダイアジノン乳40	1B	劇	30	2		◎		◎◎										◎			◎
ダイアジノン粒5	1B		*f	2													◎				◎
ダイアジノン粒5	1B		*d	1													◎				
ダイアジノン粒10	1B	劇	30	2													◎				
マラソン乳	1B		3	5		◎◎◎◎															
プリンス粒	2B		*h	1	◆					◎											
プリンス粒	2B		*m	1	▲					◎											
プリンス粒	2B		*n	1	△					◎											
アデオン乳	3A		3	5		◎				◎											
ガードバイトA粒	3A		*L	5													◎				
トレボン乳	3A		1	3				◎													
フォース粒	3A	劇	*d	1													◎				
アクタラ粒5	4A		*a	1				◎◎◎		◎											
アクタラ粒5	4A		*h	1				◎		◎											
アクタラ顆溶	4A		1	3		◎															
アドマイヤーFL	4A	劇	3	2		◎															
アドマイヤー1粒	4A		*d	1		◎															
アルバリン顆溶	4A		3	2		◎															
スタークル顆溶	4A		*d	1	☆	◎				◎											
ダントツ溶	4A		3	3		◎		◎◎		◎◎											
ダントツ粒	4A		*a	1		◎		◎◎◎		◎◎◎											
ダントツ粒	4A		*a	1	▲	◎	ギ	◎◎◎		◎◎◎											
ダントツ粒	4A		*d	1		◎		◎◎◎		◎◎◎											
ダントツ粒	4A		*h	1	◇	◎		◎		◎											
ダントツ粒	4A		*h	1	◆	◎		◎		◎											
ベストガード溶	4A		1	3		◎◎															
ベストガード粒	4A		*d	1		◎◎															
ベストガード粒	4A		*a	1		◎◎															
モスピラン顆溶	4A	劇	14	3		◎◎		◎◎		◎◎											
モスピラン粒	4A		*e	1		◎		◎◎◎		◎◎◎											
モスピラン粒	4A		*d	1		◎		◎◎		◎◎											
トランスフォームFL	4C		1	3		◎															
ディアナSC	5		1	2			◎		◎◎◎◎◎◎	◎◎◎◎◎◎					◎◎						
アニキ乳	6		3	3				◎◎		◎◎		◎◎	◎◎								
アフーム乳	6		3	3				◎◎		◎◎		◎◎	◎◎		◎						
コルト顆水	9B		1	3		◎															

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー*1(野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機構分類コード	人畜毒毒性	使用時期(回数)	使用回数	使用回数	アブラムシ	アザミウマ	カブラハム	アオナ	コナ	ハイマダラノメイガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	シロイチモジヨトウ	オオタバコガ	ウワバシ	ネキリムシ	キスジノミハムシ	コガネムシ類幼虫	ケシマルトビムシ	キボシ
コテツFL	13	劇	3	2					◎	◎		◎	◎								
パダンSG溶	14	劇	7	4						◎											
リーフガード顆水	14	劇	7	3	◎					◎											
アタブロン乳	15		21	2					◎	◎						タ					
カウンター乳	15		7	2							◎	◎									
カスケード乳	15		7	2		◎		◎	◎	◎	◎	◎									
マッチ乳	15		7	3									◎								
ファルコンFL	18		3	2								◎	◎								
マトリックFL	18		1	3								◎									
ハチハチ乳	21A	劇	7	2	◎			◎	◎												
トルネードエースDF	22A		14	2				◎	◎												
ファイントリムDF	22A		14	2				◎	◎			◎									
アクセルFL	22B		1	2					◎		◎	◎									
アクセルベイト粒	22B		1	2													◎				
モベントFL	23		7	3	◎	◎		◎	◎												
フェニックス顆水	28		1	2					◎	◎	◎	◎	◎								
プリロソソ粒	28		*i	1	▲	◎	◎		◎	◎											
			*j			◎	◎		◎	◎											
プレバソンFL 5	28		*i	1	☆				◎	◎			◎								
				1	3				◎	◎			◎								
プレバソン粒	28		*i	1	▲				◎	◎											
			*j						◎	◎											
ベネビアOD	28		1	3		◎	◎		◎	◎			◎	◎							
ベリマークSC	28		*i	1	☆	◎	◎		◎	◎			◎	◎							
ヨールバルFL	28		1	3		◎	◎		◎	◎			◎	◎			◎				
			*i	1	☆	◎			◎	◎			◎				◎				
ウララDF	29		1	2		◎															
グレーシア乳	30		7	2			ギ		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎					
プロフレアSC*2	30		1	3					◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎					
ファインセーブFL	34	劇	3	2		◎			◎	◎											
プレオFL	UN		7	2					◎				◎	◎							
キックオフ顆水	4A・28		*k	1	☆	◎			◎	◎			◎								
ジュリボFL	4A・28		*i	1	☆	◎	ギ		◎	◎	◎		◎								
				1	3				◎	◎			◎								
ミネクトデュオ粒	4A・28		*c				◎	◎		◎	◎										
			*d	1			◎	◎		◎	◎										
			*h																		
			*n								◎										
アフームエクセラ顆水	6・15		7	3					◎	◎	◎		◎	◎							

ブ
ロ
ッ
コ
リ
ー

ブロッコリー^{*1} (野菜類、はなやさい類の登録農薬も使用できる)

*1: 茎ブロッコリー(スティックセニョール等)には、ブロッコリーの登録農薬は使用できない。野菜類及び茎ブロッコリーで登録のある農薬のみ使用できる。

*2: 「はなやさい類」での登録

☆: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットで育苗している苗に灌注処理する。なお、この使用法は、土耕栽培による苗には使用できない。

◇: 覆土後セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から散布する。

◆: セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する。

△: セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの床土に均一に混和する。

▲: セル成型育苗トレイ又はペーパーポットの上から均一に散布する。

*a: 育苗期後半 *b: 定植前まで *c: 播種覆土後～育苗期後半 *d: 定植時

*e: 定植前日～定植当日 *f: 播種時又は定植時 *h: 播種時 *i: 育苗期後半～定植当日

*j: 育苗期後半～定植時 *k: 定植前日～定植時 *L: 生育初期

*m: 播種時～定植前 *n: 播種前

ギ: ネギアザミウマ タ: タマナギンウワバ

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病 害	春まき		—	—	—	—	—					
	黒腐病			—	—	—						
	夏まき (秋どり)							—	—	—	—	
	黒腐病							—	—	—	—	
虫 害	コナガ					—	—					
	アオムシ (モンシロチョウ)				—	—	—					
	ヨトウムシ				—	—	—					
	アブラムシ類				—	—	—					
									—	—	—	—

作 型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
根こぶ病	播種前または定植前	<ol style="list-style-type: none"> 常発生地ではアブラナ科以外の作物との輪作を心がける。 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。 石灰施用により土壌酸度を矯正する。 定植直前に次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 オラクフル粉剤 全面処理 30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a ネビジン粉剤 全面処理 20～30kg/10 a 作条処理 20kg/10 a フロンサイド粉剤 全面処理 30～40kg/10 a 作条処理 15～20kg/10 a 定植前日～当日に次の薬剤をセル苗に灌注する。 ランマンフロアブル△ 500倍 	各種アブラナ科作物に発生し、土壌伝染する。ダイコンでは被害はほとんど見ない。 夏から秋にかけて、高温多湿の年は、夏まきに多発する。 春先にアブラナ科作物を栽培し、秋も連作すると多発しやすい。 トウモロコシやジャガイモの後作では被害が軽い傾向がある。 薬剤は地層10～15cmの土壌と十分に混合する。 △ 2ℓ/セル成型育苗トレイ(30×60cm、土壌量約2.5～7ℓ)
	生育期および収穫後	・発病株は根、特にこぶを残さないように早めに処分する。また収穫後、残渣を丁寧に処分し畑にすぎこまないようにする。	

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
苗立枯病	播種前	1. 過密な播種をさけ、苗床の過湿に注意する。 2. 高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	病原菌はリゾクトニア菌の場合が多いが、育苗中に雨が多い年にはピシウム菌によることもある。 #リゾクトニア菌にのみ有効。
	育苗期	・次の薬剤を30/m ² 灌注する。 リゾレックス水和剤# 500倍	
黒腐病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	各種アブラナ科植物に発生し、土壤伝染する。 病原細菌は葉緑の水孔および葉や茎に生じた傷口から侵入する。 ブロッコリーは本病に感受性が高い。 5月および9～10月頃、比較的気温が低く雨の多い年に発生しやすい。特に台風後に多発し、害虫などによる食害は発生を助長する。 *野菜類での登録
	生育期	1. 害虫の防除を行う(害虫の項参照)。 2. 発生が認められたら初期に次の薬剤のいずれかを散布する。 カスミンボルドー(水) 1000倍 キノンドー水和剤40 800倍 Zボルドー(水)* 500倍 3. 台風などで茎葉が傷ついたときはただちに上記薬剤を散布する。	
根朽病	播種前	・高畝にするなど、圃場、苗床の排水を良好にする。	キャベツ、カリフラワーなどに被害が多く、土壤伝染する。 秋どりの幼苗期～生育中期にかけて発生が多く、強風は本病の発生を助長する。
	育苗期～生育期	1. 植え傷み、特に地際部の傷に注意する。 2. 発病株は早めに処分する。	
アブラムシ類	生育期	1. 寒冷紗などによる被覆栽培や光反射マルチシート等で有翅虫の着生を防止する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 3000倍 ウララDF 2000～3000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	
アオムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エスマルクDF* 1000～2000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍	老熟幼虫は薬剤が効きにくいので、小さいうちに駆除する。 *野菜類での登録

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
コナガ		<p>・露地栽培ではコナガコンを8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a 又は20cmチューブを200本/10a 設置する。施設栽培ではハウス内の天井に近い位置に100～400m/10a (100mリール)となるよう固定する。</p>	<p>発生回数が多く、春から初冬まで発生加害する。 幼苗期には心葉を好んで食害し、花蕾期には花も加害する。 フェロモン剤の使用に当たっては可能な限り広範囲での使用が望ましい。野菜類での登録。</p>
	育苗期	<p>1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを処理する。 ダントツ粒剤 株元散布 #2 0.5 g/株 プレバゾンフロアブル5 セル苗等に灌注 #1、#3 100倍 プレバゾン粒剤 株元散布 #4 1 g/株</p>	<p>#1セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(約30×60cm、使用土壌約1.5～4l)あたり0.5l。土耕の育苗床では使用できない。 #2育苗期後半 #3育苗期後半～定植当日 #4育苗期後半～定植時</p>
	生育期	<p>・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アタプロン乳剤 2000倍 エスマルクDF* 1000～2000倍 エコマスターBT* 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 ダイアジノン乳剤40 1000倍 トルネードエースDF 2000倍 ハチハチ乳剤 1000～2000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバゾンフロアブル5 2000倍</p>	<p>*野菜類での登録</p>
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	育苗期	<p>1. 施設育苗の場合、サイド等の開口部には防虫ネットを用いる。施設の出入り口は常に閉めておく。土耕の場合、育苗床は防虫ネットを用いる。 2. 次の薬剤のいずれかを株元処理する。 ダントツ粒剤 育苗期後半 0.5 g/株 プレバゾン粒剤 育苗期後半～定植時 1 g/株 モスピラン粒剤 定植前日～定植当日 0.5 g/株</p>	<p>夏が高温乾燥の時に多発する傾向がある。幼苗期に加害されると芯止まりとなり被害が大きい。</p>

ブロッコリー(野菜類、ハナヤサイ類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
(ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ))	幼苗期	・次の薬剤のいずれかを散布する。 チューンアップ顆粒水和剤* 2000～3000倍 プレバソンフロアブル5 2000倍	*野菜類での登録
ヨトウムシ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを葉裏に丁寧に散布する。 コテツフロアブル 2000倍 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 グレーシア乳剤 2000～3000倍	5～6月と9～10月の2回発生する。 若齢期は表皮を残し葉肉をかすり状に食害する。 老熟幼虫は薬剤が効きにくい。
ハスモンヨトウ	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団でいるので見つけ次第葉ごと処分する。 2. 幼虫の若齢期に次の薬剤のいずれかを散布する。 フェニックス顆粒水和剤 2000～4000倍 プレオフロアブル 1000倍	春から初冬まで数回発生するが、多くなるのは8月下旬以降である。 中齢以降には薬剤が効きにくい。
ネキリムシ類	定植時～生育初期	1. 定植時に次の薬剤を土壌表面散布する。 ダイアジノン粒剤5 6 kg/10 a 2. 生育初期に次の薬剤を株元散布する。 ガードベイトA(粒) 3 kg/10 a	発生量が多くない時は、被害のあった株元の土を調べ、幼虫を捕殺する。
キボシマルトビムシ	生育期	・発生を見たら次の薬剤を散布する。 ダイアジノン乳剤40 700倍	